

お父さんとハッピーは、
ふたりで旅を続けたんだ。
きっと、幸せだったと思う。



星守る犬

西田敏行 玉山鉄二 川島海荷
余貴美子 温水洋一 濱田マリ 塩見三省 中村獅童
岸本加世子 藤竜也 三浦友和

「泣けた本ランキング」
第1位

「読者が選ぶベストナ本」
第1位

原作 村上たかし「星守る犬」(双葉社刊)
監督 瀧本智行 脚本 橋本裕志 音楽 稲本賢
製作「星守る犬」製作委員会 配給 東宝

(「ダ・ヴィンチ」BOOK OF THE YEAR 2009)

「こんなに切ないのに、心が温まるのはなぜだろう…」

日本中に静かなブームを巻き起こした奇跡の感動作『星守る犬』 遂に映画となってスクリーンに登場



夏——。

とある山中に放置されたワゴン車から、身元不明の中年男性と犬の遺体が発見された。
男性の遺体は死後半年経過しているのに、犬の遺体は死後1ヶ月しか経っていないことが判った。

犬はなぜ、男のそばに寄り添って死んだのか…？

市役所の福祉課に勤める青年（玉山鉄二）は、偶然出会った少女（川島海荷）と共に、
死んだ男と犬の足取りを追う旅に出る。男は「お父さん（西田敏行）」、犬は「ハッピー」という。
ふたりの旅は、東京からはじまり、北海道へ——

時に可笑しく、時に哀しく、旅の途中で出あった人びとに、忘れられない思い出を残していた。

やがて、旅の終着点で、青年と少女が見たものとは……、「星守る犬」という言葉にこめられた願いとは……。



原作は、村上たかしの同名コミック（双葉社刊）。夏空の下、眩しいほどに咲き誇るひまわり畑に佇む、一匹の白い犬。そんな印象的な表紙が呼び水となって、各メディアで「とにかく泣ける」「今年1番の感動作」という評価を得ました。名もなき男と犬の旅路を通して、人生の夢と挫折、老いと孤独、不況、リストラ、熟年離婚、無縁死など、現代の孕む問題に鋭く斬り込みながらも、誰かとふれあい、温もりと勇気を得て生きていく「人間のたくましさ」、そして、人と動物の間に育まれた家族愛を描いた物語。その映像化には、大手映画会社、テレビ局、全社からオファーが殺到した大注目作品です。主人公、お父さんを演じるのは、日本を代表する名優・西田敏行。日本の美しい街々を愛犬・ハッピーと可笑しくも切ない旅を続けます。そして、お父さんとハッピーの旅の軌跡を辿る孤独な青年・奥津を若手実力派の玉山鉄二、偶然の出会いから奥津と共に旅する少女・有希を、人気、好感度ともに群を抜く川島海荷。さらに、日本映画に欠かさない個性派キャストたちが味わいある演技で脇を固めます。監督は、「犯人に告ぐ」「イキガミ」など、優れた人間描写と社会性を織り込んだ作風で評価の高い瀧本智行。2011年の初夏を彩る感動作の誕生に、どうぞご期待ください。

「泣けた本
ランキング」
第1位

「読者が選ぶ
プラチナ本」
第1位

（「ダ・ヴィンチ」BOOK OF THE YEAR 2009）

ダブル受賞!!



6月11日(土)公開 hoshimamoru.com